

プレスリリース（ご案内）

COI-NEXT 川崎拠点（プロジェクト CHANGE®） 第 2 回シンポジウム「健康 X 長寿の新たな期待」 ～2030 年の世界を変えるケアイノベーション～

報道関係者 各位

平素は大変お世話になっております。

文部科学省/JST による共創の場形成支援プログラム（COI-NEXT）川崎拠点（プロジェクト CHANGE、プロジェクトリーダー：一木隆範/ナノ医療イノベーションセンター研究統括/東京大学大学院工学系研究科教授）は、後述の実施要領にて第 2 回シンポジウム「健康 X 長寿の新たな期待～2030 年の世界を変えるケアイノベーション」を 12/11（月曜）午後 1 時に川崎市産業振興会館ホール（JR 川崎駅北口から徒歩 7 分）にて開催致します。

プロジェクト CHANGE も採択から 1 年が経ち、組織の基盤も大分固まりました。研究開発課題についても多くの進捗がある中、今回のシンポジウムでは 2 つのテーマを設定しました。

1 つ目のテーマは、研究開発課題 3（リーダー：西山伸宏/ナノ医療イノベーションセンター主幹研究員/東京工業大学科学技術創成研究院教授）が取り組む「老化抑制」についてです。年齢とともに誰もが増える「加齢」とは異なり、「老化」は人によって進み方が異なります。その本質について、この道の世界的リーダーである東京大学医科学研究所所長・中西 真先生に基調講演をお願いしました。続いて、西山リーダーから、これまで培ってきたスマートナノマシン®による薬物送達技術を応用した新たな展開について紹介し、パネルディスカッションにてこのホットな話題を掘り下げていきます。

2 つ目のテーマは、プロジェクト CHANGE®の要となる「看護 X 工学」によるケア製品の創出と社会実装についてです。基調講演者として経済産業省医療・福祉機器産業室の渡辺信彦室長を招き、日本の医療機器および福祉機器産業に関する政策と今後の見通しについてお話し頂きます。また、続くパネルディスカッションでは、プロジェクト CHANGE で進む「看護 X 工学」のイノベーション創出にフォーカスし、特に看護現場の課題からの研究開発テーマ設定のアプローチと、得られた成果の製品化に向けた課題と期待について討論を行います。

記

日時： 2023年12月11日（月）13時～17時50分
場所： 川崎市産業振興会館ホール（JR川崎駅から徒歩7分）
[交通・アクセス | 川崎市産業振興会館 \(kawasaki-sanshinkaikan.jp\)](https://www.kawasaki-sanshinkaikan.jp)
Zoomによるオンラインでも視聴できます。
参加費： 無料
事前登録： 12月6日までに以下のサイトからご登録をお願いします。
https://change.kawasaki-net.ne.jp/event/2nd_symposium/

主催： 公益財団法人川崎市産業振興財団ナノ医療イノベーションセンター
後援： 川崎市看護協会、川崎市

CHANGE
Center of Healthy Longevity Nanotechnology Innovation with Social Enterprise
COI-NEXT

COI-NEXT 川崎拠点 “CHANGE” 第2回シンポジウム

健康×長寿の新たな期待

～2030年の世界を変えるケアイノベーション～

2023
12 / 11
MON
13:00～17:50

開催方法 会場&オンラインのハイブリッド開催

会場 川崎市産業振興会館 (12:30 受付開始)
JR川崎駅 北口から徒歩7分

ライブ配信 Zoomウェビナー

参加費 無料

参加申込 12月6日(水)まで ※要事前参加登録
CHANGE 共創の電脳支援プログラム

基調講演

第1部
「老化細胞を標的として加齢病態を改善する」
中西 真
東京大学医科学研究所 所長・教授

第2部
「経済産業省における医療・福祉機器産業政策と将来像」
渡辺 信彦
経済産業省 商務・サービスグループ
ヘルスケア産業課 医療・福祉機器産業室 室長

13:00～
開会挨拶
片岡 一則 川崎市産業振興財団 副理事長 / ナノ医療イノベーションセンター (ICONM) センター長
福田 紀彦 川崎市長

来賓挨拶
長我部 信行 COI-NEXT共創分野・地域共創分野 第2領域
プログラムオフィサー
廣野 宏正 文部科学省 科学技術・学術政策局
産業連携・地域振興課 拠点形成・地域振興室 室長

拠点紹介
1509 「レジリエント健康長寿社会の実現に向けたチャレンジ」
一木 隆範 PL / ICONM研究統括 / 東京大学 教授

13:40～
第1部 期待される老化制御の未来
4809 **基調講演** 「老化細胞を標的として加齢病態を改善する」
中西 真 東京大学医科学研究所 所長・教授
2009 **拠点での取組み**
「レジリエント健康長寿社会の実現に向けたスマートナノマシンの研究開発」
西山 伸宏 研究開発課題3リーダー / 東京工業大学 教授
4009 **パネルディスカッション**
モデレーター 西山 伸宏 研究開発課題3リーダー / 東京工業大学 教授
パネリスト 中西 真 東京大学医科学研究所 所長・教授
高橋 颯子 公益財団法人がん研究会
がん研究所 細胞老化研究部 部長
長田 健介 電子科学技術研究開発機構 上席研究員
島崎 真 副PL (連携推進) /
ICONMコミュニケーションマネジャー

休憩/ティーブレイク

16:05～
第2部 ケア×テクノロジーがもたらす未来
500 **Future Opinion Board ビデオメッセージ**
4809 **基調講演** 「経済産業省における医療・福祉機器産業政策と将来像」
渡辺 信彦 経済産業省 医療・福祉機器産業室 室長
4009 **パネルディスカッション**
モデレーター 永井 浩二 副PL (統括) / ICONM副センター長
パネリスト 渡辺 信彦 経済産業省 医療・福祉機器産業室 室長
坂元 昇 川崎市立看護大学 学長
松元 亮 研究開発課題2リーダー /
東京医科歯科大学 教授
山上 明日 株式会社SOERUTE 代表取締役
神田 循大 ICONM特任研究員

17:40～
閉会挨拶
三浦 淳 川崎市産業振興財団 理事長

共創の場形成支援プログラム (COI-NEXT) について

大学等が中心となって 未来のあるべき社会像（拠点ビジョン）を策定し、その実現に向けた研究開発を推進するとともに、プロジェクト終了後も、持続的に成果を創出する自立した産学官共創拠点の形成を目指す産学連携プログラム。JSTの既存の拠点形成型プログラムの1つである、センター・オブ・イノベーション (COI) プログラムがコンセプトとして掲げる「ビジョン主導・バックキャスト型研究開発」を基軸とした制度設計を行ったことから、本プログラムの愛称を「COI-NEXT」ともいいます。知と人材の集積拠点である大学等のイノベーション創造への役割が増している中、これまでの改革により、大学等のガバナンスとイノベーション創出力の強化が図られてきました。今後、「ウィズ/ポストコロナ」の社会像を世界中が模索する中、我が国が、現在そして将来直面する課題を解決し、世界に伍して競争を行うためには、将来の不確実性や知識集約型社会に対応したイノベーション・エコシステムを「組織」対「組織」の産学官の共創（産学官共創）により構築することが必要となります。

<https://www.jst.go.jp/pf/platform/outline.html>

プロジェクト CHANGE について

文部科学省/JSTによる「令和4年度共創の場形成支援プログラム COI-NEXT」（共創分野・本格型）に川崎市産業振興財団（理事長：三浦 淳、所在地：川崎市幸区、略称：KIIP）が代表機関となり申請し、2022年10月25日に採択が決まったCOI-NEXT川崎拠点のことをプロジェクトCHANGEと呼びます。「医工看共創が先導するレジリエント健康長寿社会」をビジョンに掲げ、少子高齢社会にあって負担が増える医療職種の中でも、これまで工学がほとんど介入してこなかった看護領域に特に着目して看護業務の負担軽減を工学の力で行うとともに、老化に抗う身体を造る術について研究開発を行い社会実装します。さらには、市民のケアコンピテンシー（ケアする力）を高め、誰もが簡単に扱えるケア製品やシステムを開発します。

<https://change.kawasaki-net.ne.jp/>

公益財団法人川崎市産業振興財団について

産業の空洞化と需要構造の変化に対処する目的で、川崎市の100%出捐により昭和63年に設立されました。市場開拓、研究開発型企業への脱皮、それを支える技術力の養成、人材の育成、市場ニーズの把握等をより高次を実現するため、川崎市産業振興会館の機能を活用し、地域産業情報の交流促進、研究開発機構の創設による技術の高度化と企業交流、研修会等による創造性豊かな人材の育成、展示事業による販路拡大等の事業を推進し、地域経済の活性化に寄与しています。

<https://www.kawasaki-net.ne.jp/>

ナノ医療イノベーションセンターについて

ナノ医療イノベーションセンター (iCONM) は、キングスカイフロントにおけるライフサイエンス分野の拠点形成の核となる先導的な施設として、川崎市の依頼により、公益財団法人川崎市産業振興財団が、事業者兼提案者として国の施策を活用し、平成27年4月より運営を開始しました。有機合成・微細加工から前臨床試験までの研究開発を一気通貫で行うことが可能な最先端の設備と実験機器を備え、産学官・医工連携によるオープンイノベーションを推進することを目的に設計された、世界でも類を見ない非常にユニークな研究施設です。

<https://iconm.kawasaki-net.ne.jp/>

2023年11月8日